

自民党衆議院埼玉県第 3 選挙区（越谷市・草加市）支部長

東日本大震災から考える政治の役割

緊急報告

きかわだひとし
黄川田仁志きかわだステーション+
プラス

※『きかステ』と呼んでください！

自立と誇りある
日本をつくります

自由民主党衆議院埼玉県第三選挙区支部長の黄川田仁志です。

東日本大震災から 1 年が経ちました。被災地では、引き続き、多くの方が復旧・復興に全力で取り組んでおられます。家を流され、家族を亡くし、仕事も失った方々が、懸命に日々を生きておられることを思うと、改めて、政治の役割の大きさを感ぜずにはられません。

■「絆」も「公助」も大切

今回の震災を機に、日本中で叫ばれた言葉があります。「絆」（きずな）です。

特に、地域の「絆」の構築が、災害などの緊急時には大変重要であることが再確認され、自民党も「絆」をスローガンに、復旧・復興に取り組んでいます。

実際、被災当時の状況を調べてみると、公助を担う地域の「役所」（行政）が、大きな被害を受け、機能せず、被災者の皆さんは、生き残った人たちで力を合わせ、支え合い、頑張るしかありませんでした。

だから、「共助」と言われる「絆」が大切であるということに間違いはありません。しかし、共に助け合っている人たちは、お互いに被災者であり、心身ともに、大きなダメージを受けています。公助である「役所」がもう少し効果的に機能していれば、被災者の皆さんの御苦労を軽減できたのではないのでしょうか。

■私たちは「役所」に何を求めているのか？

私たちは、何のために税金を払っているのでしょうか。私たちの命が本当に危機的な状況に陥ったとき、「役に立つところ」として「役所」が機能しなくては、意味がないと私は思います。

共助が重要であることに間違いありません。「絆」は大切です。しかし、例えば都市部の場合、単身世帯が急増しており、地域の「絆」を基にした「共助」が、ほとんど機能しない現実があります。そのような都市部の地域では、公助の役割がより重要です。

特に、今回のような大災害の場合、被災地である地域は、行政も含め、大変に混乱しています。国は地域に代わってリーダーシップを発揮し、情報収集や発信、様々な調整などをする必要があります。

■国の政治が災害時の私たち生活を左右する

日本は、地震・津波・台風・洪水など、毎年のように自然災害が起こる国です。災害時には、共助の支援機能として、自衛隊や消防、警察の活躍が不可欠です。しかし、彼らが現場で、必要とされることを、素早く正確に実行するためには、国の政治の的確な判断と決断が必要であることは、福島第一原発の事故の対応から見ても明らかです。

だからこそ、災害時に、政治がしっかりとリーダーシップを取り、いち早く、公助が機能する体制をつくるのが重要です。そして今、首都圏直下型地震も警戒されています。私、黄川田仁志は、東日本大震災での教訓を国づくりに生かし、国民の生命と財産をしっかりと守る政治を行います。

平成 24 年 3 月吉日

自由民主党衆議院埼玉県第三選挙区支部長

黄川田仁志